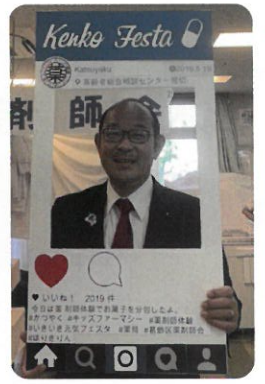




のびのび

令和元年 夏号 1-5



新しく迎えた令和の時代、葛飾区議会第2回定例会が6月5日から21日の17日間の日程で開催されました。「住み続けたい葛飾」を更に暮らしやすくしていくための多くの施策が決まりました。

子育て拠点「子ども未来プラザ」が始動します

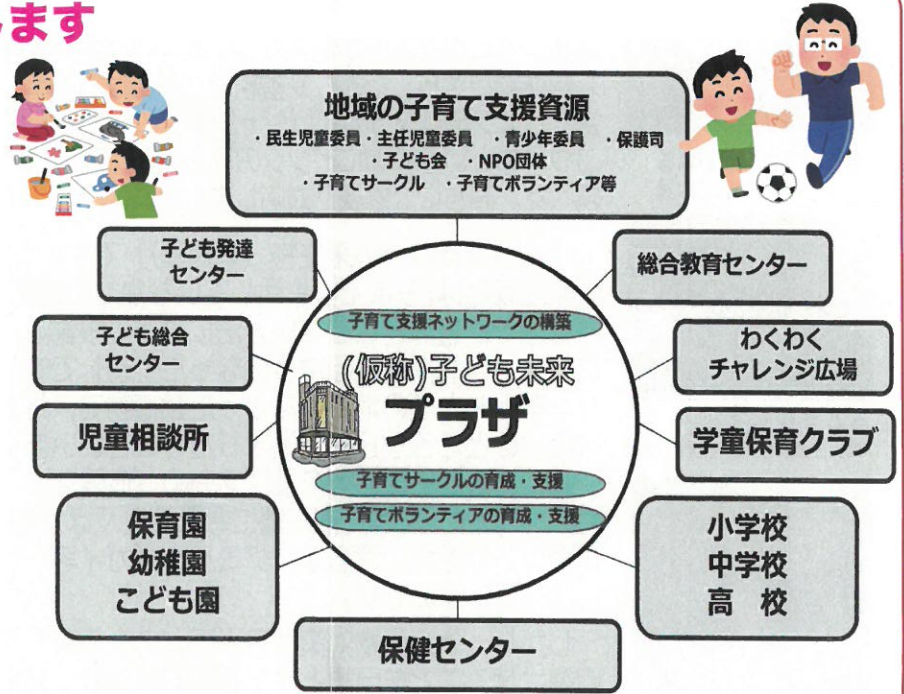
老朽化が進んでいた児童館と保育園のリニューアルが始まっています。これまで以上に質の高い子育て支援サービスの提供を目的として策定されました。妊娠期から子どもが成人するまで利用できる施設です。

子どもの過ごす場、子育て支援の拠点、そして地域の子育て力の向上に寄与する拠点として、利用者に寄り添い、きめ細やかで切れ目のない支援を実現します。

2020年1月開設予定の鎌倉から、区内7箇所に順次開設されていきます。

(①鎌倉、②小菅、③西新小岩、④東四つ木、⑤白鳥、⑥新宿、⑦東水元)
*⑥⑦は詳細未定

子ども未来プラザ白鳥は2025年度 後半の開設予定です。



地域BWAの導入が始まります

地域BWA(地域広帯域移動無線アクセス) システムとは、地域の公共福祉の増進に寄与するために用いられる無線ネットワークです。特徴として、自治体ごとに自由なサービス設計が可能で、通信輻輳時に優先接続が可能になり、緊急時に大きな威力を発揮できる画期的なシステムです。そのため、これらのメリットを活かして区の事業に活用することを検討しています。

例として、これまでの公衆無線LANの弱点をカバーして繋がりやすくなるため、第1避難所の体育館等で無料の無線LANを設置することや、既にある防犯カメラや河川監視カメラのネットワーク化を行い、災害時の被災状況の把握等に活用することを検討しています。

そのほか、子どもや高齢者等の見守りサービスをはじめとする利用方法を、検討してまいります。



お花茶屋図書館の老朽化対策を強く要望しました

築42年のお花茶屋図書館は建物も、エレベーターやエアコンなどの設備も老朽化。バリアフリー対応も望まれています。

長年に渡り地元で愛され、これまでも度々の修繕を行ってきた施設ですが「大規模修繕を繰り返すよりも、建て替えを含め、根本的に見直す何か良い方法を考えて頂きたい！」と、地域の長年の願いがかなうよう、地元議員として文教委員会で強く要望しました。

葛飾区の施策は次々と実現しています

第1回定例会で一般質問した案件が次々と実現しています。まず風しん対策が進みました。水害時への対策として、新しいハザードマップが次年度配布されます。(現在鋭意作成中)

他にも区民税や軽自動車税の改正、産後ケアの実施など、葛飾区は日々新しくなっています。詳細は広報かつしか、また私のFacebookでもお伝えしていきます。

力感謝 協力 工夫 健康 向上心

私の目指す『心豊かな街』

1. 次代の葛飾を担う子ども達を地域で育む街
2. 子育てしやすく安心して暮らせる街
3. 健康寿命促進に地域で取り組む街
4. 若者が生涯住み続けたいと思う街
5. 高齢者が孤立しない街

カキクケコで葛飾をのびのびと!

『地域密着 一所懸命』高木信明 (のぶあき) プロフィール

1962年12月28日生まれ、山羊座、O型
千鶴幼稚園、東綾瀬小学校、青葉中学校、都立東高校卒業。
玉川大学文学部教育学科卒。私立小学校にて31年間学級担任勤務。
自由民主党東京都葛飾区第22支部長、自由民主党葛飾総支部青年部長。
葛飾区議会文教委員会、危機管理対策委員会所属。
お花茶屋地区まちづくり懇談会顧問。葛飾区青少年問題協議会委員。

今、葛飾区環境を考える①

命の大切さを考えて!

水元公園の特定外来種問題から



多くのファンが訪れるカワセミの里

区民から愛され、大切にされている都立水元公園。7月初旬にはカワセミのひな鳥が巣立つなど、都内とは思えないほどの自然に恵まれ、海外からのバードウォッチングファンも訪れる癒やしのスポットです。

その水元公園で今、特定外来種が話題となっています。まず、カミツキガメが増えています。印旛沼で大量発生し農作物を荒らしたとTV番組でとりあげられました。また、スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)も心配です。コウホネという植物にピンクの卵を大量に産み付けていました。直ちに公園課で対応しました。



スクミリンゴガイ
写真:千葉県農林総合研究センター

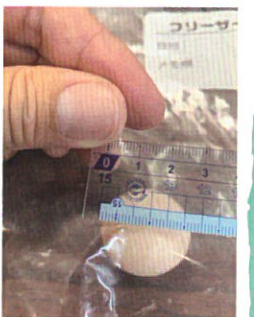
これらはみな「外来生物(外来種)」です。外来生物とは、今までに生活していなかった地域に「自然状態では普通起こらない方法によって移動し、そこに住み、自然繁殖するようになった生物」です。つまり、もともとその地域になかった動植物で、外国や日本の他のところから持ち込まれたものをいいます。



スクミリンゴガイの卵
7月1日水元公園キャンプ場付近

特に、人間に悪影響を及ぼすもの(危険なカミツキガメ、アライグマ等)、在来種に悪影響を及ぼすもの(カダヤシ、稲を食い荒らすスクミリンゴガイ等)が問題になっているのです。

しかし、外来生物対策は日本固有の生態系を保護・回復させることを目標とするものであって、外来種を根絶・全滅させる活動を目指すものではありません。実際、池の水を抜いて外来種退治をしたつもりでも、すべてを取り尽くすことは不可能です。水を抜いてブラックバスを捕ったら、今度は天敵がいなくなった為にアメリカザリガニが増えてしまい、在来種のゲンゴロウが食べられて減ってしまったという事例も金沢で報告されています。



カミツキガメの卵
7月1日水元公園キャンプ場付近

子ども達には、命の大切さについて機会のあるごとに考えてほしいです。殺していい生物と殺してはだめな生物という考え方が命の差別化につながる、と警告している学者もいます。ですから、人間の都合で「外来種→悪→駆除」と簡単に捉えるのではなく、人間にとってのベスト、生物にとってのベストを配慮して自然環境について考えていきましょう。

特定外来種とは...

外来生物のうち、日本の生態系に特に被害が多く見られ、外来生物法(2004)で規制された生物のこと。ウシガエル、ブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)が有名。メダカにそっくりなカダヤシによって水元公園のメダカは全滅したともいわれています。

特定外来種は、飼ったり人に譲ったり野外に放つたりすることが法律で禁止されています。生きたまま運ぶことにより繁殖する可能性があるということでも移動させることも法律違反になります。(3年以下の懲役、300万円以下の罰金)

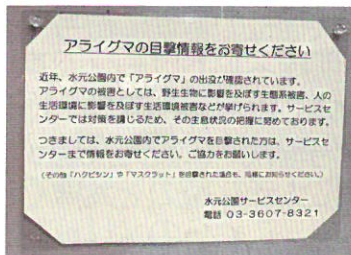


急変する自然環境への対応

水元公園の大場川と小合溜の間の中土手が6月~7月上旬に崩壊しました。大場川のほうの水位が低いために小合溜の水が勢いをつけて流出。区は早急に埼玉県に対応を要請、工事がすぐに始まりました。ここで難しいのが、壊れやすい中土手の工事を急かしてしまうと、何度も工事をしなくても良いようにコンクリートによる護岸工事が行われる可能性が高いことです。自然環境の保護を第一に配慮した対応を区は進めています。



7月2日撮影 手前が小合溜



公園外でアライグマを目撃したら区役所環境課にご連絡ください。



葛飾区オリジナルの下敷きを学校で配布して注意を呼びかけています。

今、一人ひとりができることは、「外来生物法」がスローガンにしている三原則です。

- ①悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に「**入れない**」
- ②飼っている外来生物を野外に「**捨てない**」
- ③野外にすでにいる外来生物は他地域に「**拡げない**」



外来生物について、ぜひ調べてみてください。葛飾の環境について、これからもレポートをしていきます。

★皆様のご意見・ご要望をお聞かせください

日々の活動報告はこちらから

【発行人】葛飾区議会議員 高木信明
 【住所】〒125-0063 葛飾区白鳥 2-16-11
 【メール】takageta62@gmail.com
 【携帯電話】090-9368-2514
 【FAX】03-3601-9367

公式ホームページ 選挙ドットコム

アメブロ

